## 事業進捗状況報告について

## 1 事業進捗状況報告

これまでから総合事業等審査会では審査を行った事業について、審査意見の反映状況等を確認するため、事業進捗状況報告を実施している。

## 2 今回の事業進捗状況報告

次の事業について、進捗状況の報告を行う。

○ 兵庫県立がんセンター建替整備事業(令和元年度審査事業)

【所管部局:病院局】

## (1) 整備目的

「兵庫県立がんセンター建替整備基本計画」に基づき、最先端のがん医療の提供など、 引き続き県内がん医療のリーディングホスピタルとしての役割を果たしていくため、 建替整備を実施。

## (2) 整備概要

- ① 整備場所 明石市北王子町 (旧県立明石西公園)
- ② 施設規模 敷地面積 約 40, 186 m²

病院棟 免震構造 地上7階 塔屋1階 延床面積38,750 ㎡ 放射線治療棟 耐震構造 地上3階 延床面積1,950 ㎡

(3) 整備費 約 238 億円

## (4) スケジュール

· 令和3年度~令和5年度 基本設計、実施設計

・令和5年度~令和7年度 建設工事・令和8年度 開院

#### 【令和元年度総合事業等審査会における審査結果】

県立がんセンターは築後35年が経過し、漏水やクラックが発生するなど施設の老朽化が進んでいることに加え、がん医療が建築当時から大きく変化していることから、外来スペースや患者アメニティ、最先端のがん医療を的確に捉えるための研究機能など、現在のスペースではがん医療の動向や患者ニーズに対応した医療を提供する機能に限界を迎えている。県立がんセンター建替の必要性があるが、その立地については、現在、東播磨圏域・三木市・神戸市西部等の県西部の患者が7割を占めることや、がん患者の家族を取り巻く課題の解決において、交通至便地にあり患者の利便性等が確保されること、また、県民の生命を守る為には、合併症への対応等が可能な明石市民病院や明石医療センターといった総合病院の近隣に位置する現在地が望ましい。

さらに、本県のがん治療における中核的な拠点的な役割を担うためには、ゲノム医療やAI診断といった先端技術の導入による高度化が必要であり、再整備を行うことで、がん予防や早期発見の推進、がん医療の充実、がんの特性に配慮したがん対策の推進等につながり、診療機能の向上といった、より良質な医療の提供が期待される。

以上のことから、当事業の推進は妥当とするが、事業推進にあたっては、合併症患者に係る近隣の総合病院との密接な連携方策の検討をはじめ、次の点に留意すること。

①合併症患者への対応については、速やかな転院等が可能なように近隣の総合病院等との密接な 連携方策を十分に検討すること。

②がん患者を取り巻く社会的な環境が変化する中で、がん診療の拠点病院としてがん患者の先進的な治療はもとより、定期検診の推進による未然防止や早期発見の推進等、社会に対する発信力についても強化すること。

③今後必要となる医療機器等の精査を行い、現有機器等を最大限活用することで、医療機器等整備費の節減に努めること。また、今後も医療機器等の高度化が想定されることから、開院後に大規模な追加投資が必要な場合には、適宜適切に収支計画を見直す等、健全な病院経営に努めること。

事 業 名	審査結果	審査結果への対応状況等								
(審 査 日)		審査時点での事業計画内容	実施段階での事業内容							
兵庫県立が んセンター 建替整備事	県立がんセンターは築後35年が経過し、漏水やクラック 的確に捉えるための研究機能など、現在のスペースではが、 三木市・神戸市西部等の県西部の患者が7割を占めること な明石市民病院や明石医療センターといった総合病院の近	が発生するなど施設の老朽化が進んでいることに加え、がん医療 ん医療の動向や患者ニーズに対応した医療を提供する機能に限界 や、がん患者の家族を取り巻く課題の解決において、交通至便地 隣に位置する現在地が望ましい。	家が建築当時から大きく変化していることから、外来スペースや患者アメニティ、最先端のがん医療をを迎えている。県立がんセンター建替の必要性があるが、その立地については、現在、東播磨圏域・にあり患者の利便性等が確保されること、また、県民の生命を守る為には、合併症への対応等が可能							
業 (R2. 1. 28)	さらに、本県のがん治療における中核的な拠点的な役割を担うためには、ゲノム医療や AI 診断といった先端技術の導入による高度化が必要であり、再整備を行うことで、がん予防や早期発見の推進、がん医療の充実、がん の特性に配慮したがん対策の推進等につながり、診療機能の向上といった、より良質な医療の提供が期待される。									
,	以上のことから、当事業の推進は妥当とするが、事業推進にあたっては、合併症患者に係る近隣の総合病院との密接な連携方策の検討をはじめ、次の点に留意すること。									
	① 合併症患者への対応については、速やかな転院等が可能なように近隣の総合病院等との密接な連携方策を十分に検討すること。	<ul><li>① 総合病院等と連携して合併症患者の対応を行うことは重要な課題であるため、比較的近隣に所在する総合病院等と連携強化に努めていく。</li></ul>								
	② がん患者を取り巻く社会的な環境が変化する中で、がん診療の拠点病院としてがん患者の先進的な治療はもとより、定期検診の推進による未然防止や早期発見の推進等、社会に対する発信力についても強化すること。	② 県内がんゲノム医療の中心として、県内の関係医療機関と連携を図り、がんゲノム医療の普及を進めていくと共に、罹患患者の治療に終始するのではなく、がん予防の方法等について PR していくことが非常に重要だと認識している。特にがん検診の受診を啓発することが重要になるため、医療行政と連携を図りながら、がん予防や早期発見に向けた対策についても検討を進める。	・がんセンターは令和元年9月に「がんゲノム医療拠点病院」に指定。がん遺伝子検査 の結果得られた情報から患者ごとに適した治療法を検討する会議(エキスパートパネル)を自ら開催することが可能となり、神戸大学等の関係機関との連携を強化。 〈パネル検査実施件数〉R1:116件 R2:111件 R3:133件							
	③ 今後必要となる医療機器等の精査を行い、現有機器等を最大限活用することで、医療機器等整備費の節減に努めること。また、今後も医療機器等の高度化が想定されることから、開院後に大規模な追加投資が必要な場合には、適宜適切に収支計画を見直す等、健全な病院経営に努めること。	③ 必要な医療機器について、費用対効果・業務効率化等の観点から最適な整備内容・調達方法を検討する。 現在、病院が保有している医療機器の機能・性能や使用状況等を考慮し、継続的使用が可能な医療機器については新病院での活用を図る。	・令和3年度、必要な医療機器の精査・安価な調達方法など、病院の支援を行う事業者 (以下「コンサル」)をプロポーザル方式により選定。							

記者発表(資料配布)								
月/日(曜日)	担当課	電 話 (内 線)	発表者名 (担当班長名)	その他 配布機関				
11/18 (金)	病院局企画課	(078) 362–3223 (3495)	企画課長 菅澤 真央 (病院整備班長 稲岡 和樹)	東播磨 県民局				

## 兵庫県立がんセンター建替整備の基本設計概要

がんセンターは、最先端のがん医療の提供など、引き続き県内がん医療のリーディングホスピタルとしての役割を果たしていくことになっている。この度「兵庫県立がんセンター建替整備基本計画(R3.2)」に基づき、基本設計を取りまとめた。

## 1 新病院の基本方針

- ・最先端のがん医療の提供
- ・がん診療を行う医療機関への教育・研修等の実施
- ・他の県立病院や地域医療機関と綿密に連携した、 総合的ながん医療の充実
- ・治験や臨床試験などの先進的医療の推進
- ・患者サポートセンターにおけるがん医療相談体制 の充実など社会的支援の実施

## 2 新病院の規模

- (1) 診療科目 23 診療科
- (2) 病床数 360 床

一般病床 333 床、緩和ケア病床 15 床 集中治療病床 12 床

新病院完成予想図(敷地南西側より)

## 3 施設計画

(1)建設場所 明石市北王子町(現がんセンター北側旧県立明石西公園)(敷地面積 40, 186 ㎡)

# (2) 構造規模等(予定)

## ① 病院棟

- ・鉄筋コンクリート造(免震構造)
- · 地上 7 階 · 塔屋 1 階
- · 延床面積 38,750 ㎡
- ·高さ38.5m

## ② 放射線治療棟

- ・鉄筋コンクリート造(耐震構造)
- 地上 3 階
- ·延床面積 1,950 ㎡
- ·高さ24.0m
- ③ その他施設 (PFI (BOT 方式) により整備) \*
  - ·平面·立体駐車場(490台程度)
  - 付帯施設
  - ※患者等へのサービス向上、効率的な駐車場運営を行うため、民間事業者の資金と ノウハウ等により施設を整備し、維持管理・運営を委ねる。



敷地平面図

「BOT 対象範囲の配置はイメージ]

## 4 概算事業費

238 億円<sup>※</sup> (建設工事費 185 億円、医療機器整備費 45 億円、設計監理費 8 億円) ※建設資材の価格上昇等の影響により経費の追加対策が必要

## 5 設計上の主な特徴

## (1) 患者の動線を第一に考えた病院の設計

- ①利用者が多い1階と2階の昇降箇所を複数にすることにより、移動距離を短縮し、患者負担を軽減
- ②入院患者の重症化の防止や術後の集中的ケアに対応できるよう、スタッフステーションから病室への視認性の高いダブルH型の病棟を採用[5~7F]
- ③ベッドごとに窓を設け、解放感のある療養環境を提供
- ④大きな面積を占めるリニアック及びエネルギーセンター を別棟化することで、その他の機能をコンパクトにまとめ て動線を短縮し、移動の負担を軽減



ダブルH型病棟のイメージ

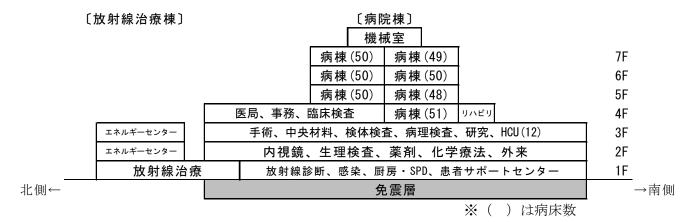
## (2) 最先端のがん医療の提供

- ①手術・臨床検査部門と研究部門を同一フロアにまとめ、医療と研究が緊密に連携できる環境を整備
- ②将来のがん医療の高度化に対応できるよう、増築による機能拡張が容易となる部門の 配置及び階層の構成

#### (3) 感染症への対応

①がん診療の機能維持のため、トリアージ室の充実や感染症患者の受け入れに備えた、 対応個室の整備など、院内に感染症を持ち込ませない水際対策を強化

#### [断面図]



## 6 整備スケジュール

年度	2021 (R3)		2022	022 (R4) 2023 (R5)		2024 (R6)	2025 (R7)		2026 (R8)	
建物整備	基		設計	実施設言	十 入: 公:	_	建設工事		開院	日日 70-
医療機器整備			医療機器選定、情報システム設計、発注						準備	開院